

+5 レベルアップシステム

目的：

この学習段位システムは、学習者の論理的思考力を伸ばすことを目的としており、段階的に思考力を強化

し、自己改善能力を養います。学習者は段位ごとに設定された目標を達成することで、より高度な問題解決

能力や論理的思考を身につけます。

システムの特徴：

- 段位毎に学習目標と基準を設定し、学習者は段位をクリアすることで論理的思考力を高めていきます。

- 日報や振り返りシートを通じて、自己分析能力や改善策を実行する力を育てます。

- 仮説思考を取り入れた学習計画や改善策を立案し、実行に移すことで論理的思考を深めます。

段位で理解できること

段位を通して、学習者は自身の学習状況を理解することができます。

表1：

段位 学習状況 特徴

5 級 学習の基本を習得している段階。
学

学習習慣を身につけ、学習管理を始める。

学習習慣がまだ定着していない。

4 級 学習時間が安定し、計画的に学習
が

学習計画の実行力が高まり、思考力の基礎が育ま

進められている段階。
れる。

3 級 受験基礎を固め、定期的に学習成

自己学習をしっかりと行い、成績向上を実

感し始め

果を出し始める段階。
る。

2 級 高度な問題解決能力を持ち、思考

論理的思考力が向上し、問題解決力を身
につけ

力を鍛えている段階。

る。

1 級 高い学力と問題解決能力を持ち、
深

高度な問題に取り組み、深い思考と分析
力を発揮

い思考を展開できる段階。
する。

各段位の概要と基準

5 級（基礎レベル）

- 目標:

- 学習習慣の定着と記録を習慣化する
（例：今月はこれを学んだ、理解できた
内容）

- 学習内容や気づいた問題点を簡潔に書くことから始め、基本的な振り返りを習慣化する（例：今月は集中できなかった、理解が浅かった部分について記載など）

- 改善案は「次回こうする」といった具体的な行動に繋げることを目指す（例：
もっと

集中できるように、学習環境を整える）

- 基準:

- 学習時間：平均1 時間

○ 振り返りシート提出頻度：月1 回以上提出。

○ 以下のようなKPT が記載できる：

■ Keep：学習内容や良かったことを3 つ書ける。

■ Problem：課題や気づいた問題点を1 つ以上書ける。

■ Try：改善案を具体的に1 つ以上挙げる。

○ 日報提出率（その日に出すこと前提）：85%

○ 以下のように日報を記載できる（学習内容を簡潔に記載。改善策や次回の学習内容に

ついての予告があれば理想的。）：

■ 勉強時間：●●

■ 勉強内容：今日学んだ内容を簡潔に記載（例：数学の問題集、英語の単語暗記）。

■ 明日やること：明日の学習予定を簡単に記載（例：英語の文法、数学の復習）

4 級（計画管理レベル）

・ 目標：

○ 学習計画の実行と振り返りを強化する。

■ 学習内容や成果を具体的に記録し、課題の分析もより行動レベルに落とし込むことを求める。

■ 改善案も具体的な期限や方法を記入することで、計画的な学習を進める。

• 基準:

○ 学習時間：平均2 時間

○ 振り返りシート提出頻度：月1 回以上

○ 以下のようなKPT を記載できる：

■ Keep: 学習内容と成果をより具体的に書ける（例：達成した問題集ページ数や単元）。

■ Problem: 課題を具体的な行動レベルまで分析できる（例：数学の模試ができなかった理由を「●●が不十分だった」と分析）

■ Try: 次の改善策に期限や方法を明記できる（例：来月半ばまでに数学の問題集1 周）。

○ 月間の日報提出率（その日に出すこと前提）：90%

○ 以下のように日報を記載できる（今日の成果を具体的に記載。計画的に学習しているこ

とが示される内容）：

■ 勉強時間：●●

■ 勉強内容：今日学んだ内容を具体的に記載（例：数学の〇〇問題集、英語の長文読解）。

■ 明日やること：明日の学習内容を具体的に記載（例：数学の〇〇章、英語の復習）。

3 級（改善力強化レベル）

- 目標：

- 問題分析と改善の具体性を高める。

■ 問題点や課題を「なぜできなかったか」を深掘りし、仮説思考を使って改善策を提

案できるようになる。

■ 具体的なアクションプランを立て、それを実行に移すことが望ましい。

- 基準：

- 学習時間：平均3 時間以上

- 振り返りシート提出頻度：月2 回提出

- 以下のようなKPT が記載できる：

■ Keep：成果や達成感をより論理的に説明できる。

■ Problem：根本原因の分析（なぜできなかったのか？）を含められる。

■ Try：仮説思考を取り入れた改善策を立案できる。

- 日報提出率（その日に出すこと前提）：95%
- 以下のように日報を記載できる（学習内容の詳細に加えて、成果や課題についても触れる。明日への改善点も意識して記載する。）：
 - 勉強時間：●●
 - 勉強内容：今日の学習内容を詳細に記載。進捗や達成感を数値で示すことができる。
 - 明日やること：明日の学習計画を具体的に記載し、目標達成に向けての工夫を加える（例：復習時間を多く取る、苦手分野を重点的に取り組む）。

2 級（振り返りスキル強化レベル）

- ・ 目標：
 - ロジカルシンキングや仮説思考を活用した振り返りを実施する。
 - 学習成果をデータ化・グラフ化し、論理的に進捗を説明できるようになる。
 - 数値的な分析や比較を使って、自己改善のポイントを見つけ、実践する。
 - 新しい学習方法を取り入れ、試行錯誤の過程を記録する。

- 基準：
 - 学習時間：平均4 時間以上
 - 振り返りシート提出頻度：月4 回提出（週1 回ペース）
 - 以下のようなKPT が記載できる：
 - Keep：学習成果をデータ化・グラフ化しながら説明できる。
 - Problem：問題点を数値化または比較分析で示せる。
 - Try：新しいアプローチや試行錯誤を積極的に記録・実践できる
 - 以下のように日報を記載できる（データやグラフを用いて振り返り、課題や成果を数値化。
また、明日への改善策をロジカルに組み立てる。）
 - 勉強時間：●●
 - 勉強内容：学習内容をデータ化やグラフ化し、振り返りを行う（例：進捗グラフ、得点分析）。
 - 明日やること：次の学習に向けて、仮説に基づいた計画を立てる（例：○○分野を重点的に復習、テスト問題を解く）。
 - 日報提出率（その日に出すこと前提）：100%

1 級（発信力・応用力強化レベル）

- 目標:

- 自分の学びを他者に発信し、フィードバックを基に改善策を実行に移すスキルを身につける

段階。ここでは、自分の考えを論理的に整理して発信する能力と、それを受け入れて自己

改善に繋げる力を養うことが目標。

- 基準:

- 学習時間：平均5 時間以上

- 振り返りシート提出頻度：月4 回提出（週1 回ペース）

- 以下のようなKPT が記載できる：

- Keep: 自分の取り組みを要約して他者に共有できる。

- Problem: 以下のように課題や失敗についてWhy 分析を用いて深く掘り下げて分析できる

- ・ 何がうまくいかなかったのか、どの部分に問題があったのかを自己分析する。

- ・ 改善すべき点や学びを特定し、その原因を明確にする。

■ Try: 具体的な改善策を立て、次に試すべき方法を明示できる（例：フィードバック

を受けた内容を具体的に修正し、次回の実践で試す）

- ・自分の学びや経験を振り返り、次回にどう活かすかを考える。

- ・実践するための明確な行動計画を立て、その計画を実行する。

○ 日報提出率（その日に出すこと前提）：100%

○ 以下のように日報を記載できる

■ 勉強時間：●●

■ 勉強内容：学びを他者に発信できる形で要約し、実践的な応用を意識する

■ 明日やること：他者のフィードバックを活かし改善したうえで、明日の実施内容を記

載できる

Appendix

各段位と大学偏差値の関係性については、段位が学習進捗や思考力を示す指標として設定されているの

で、大学偏差値とは必ずしも直結しませんが、段位が進むにつれて論理的思考や問題解決力が高まり、結果

的に受験の難易度に対応できるようになると考えられます。以下は、段位と大学偏差値の関係を簡単に示す

例です。

表2：

段位 大学偏差値 特徴

5 級

40～50 基本的な学習習慣が身についており、学習内容をこ

(初級)

なす力はあるものの、思考力や問題解決力がまだ発

展途上。受験に向けた具体的な対策はこれから。

4 級

50～55 計画的な学習ができ、少し難しい問題にも取り組み

(中級

始める。論理的思考が強化され、受験対策において

下)

一定の成果を感じる時期。入試の基礎的な問題に

対して自信が出てくる。

3 級

55～60 問題解決力や論理的思考が強化され、受験対策に

(中級

において難易度の高い問題にも対応できるようになる。

上)

一般的な大学入試（例えば、国公立大学の中堅

校や私立大学の上位学部）に対応できる力をつけ

始める。

2 級

60～65 高度な問題に取り組み、深い思考を要する課題に

(上級

対応できるようになる。論理的な解答ができ、模試で

下)

も高得点を取れるようになり、難関大学の受験に向

けて実力がつく。特に推薦型入試や難関私立大学

などに対応可能。

1 級（上

65～70 高度な問題に対応できるだけでなく、自己管理能力

級)

や進路選択に対する明確なビジョンを持つ。大学受

験においては、上位大学（国公立大学の
難関学部

や難関私立大学）に合格できるレベルに
達してい

る。論理的思考とクリティカルシンキン
グを駆使して、

入試問題のほとんどをクリアする能力が
つく。